



# 竹内街道・横大路(大道)～難波から飛鳥へ日本最古の官道～ ガイド付ウォーキングイベント

## 奈良県葛城市

コース  
マップ

竹内街道、横大路、高野街道など複数の街道が交わる交通の要所で、司馬遼太郎の「街道をゆく」を感じるコース。

### 日本遺産認定歴史の道、竹内街道・横大路(大道)とは

推古天皇21(613)年に敷設された竹内街道・横大路(大道)は、外交の玄関口である難波津から堺を経て、政治の中心だった飛鳥・小麿田宮(おはりだのみや)を結ぶわが国最古の官道。総延長約40キロ、幅20メートル以上だったといわれる。難波宮の朱雀大路から南下する難波大道、堺と長尾神社(奈良県葛城市)を東西に結ぶ竹内街道、長尾神社から小西橋(桜井市)を結ぶ横大路の三つの道からなる。古代以来、大陸との外交や聖德太子信仰、物流の拠点を結ぶ経済など、時代とともに多様な表情を刻んできている。平成29(2017)年に日本遺産に認定された。

主催:竹内街道・横大路～難波から飛鳥へ日本最古の官道「大道」～活性化実行委員会 共催:産経新聞社  
(大阪府・大阪市・堺市・松原市・羽曳野市・太子町・奈良県・葛城市・大和高田市・橿原市・桜井市・明日香村)

ガイド:葛城市観光ボランティアガイドの会

文化庁 令和元年度文化芸術振興費補助金  
(地域文化財総合活用推進事業)



### ④綿弓塚

松尾芭蕉が初めて竹内へ訪れたのは『野ざらし紀行』の旅の貞享元(1684)年9月中旬です。竹内出身の門人・千里が伴をし、竹内を案内しました。千里は江戸に滞在していた折に芭蕉の弟子となり、通称粕屋甚四郎、日損庵千里と号しました。

芭蕉は竹内滞在中、当時の村の庄屋油屋喜右衛門と親しくなり、長い俳文に「綿弓や 琵琶になぐさむ 竹の奥」の句を書いて贈っています。その後もよほどこの竹内が気に入ったのか、何度も足を運び、油屋喜右衛門の庵である興善庵に逗留したとされます。

文化6(1809)年、高田(大和高田市)の俳人が、芭蕉が竹内で詠んだ句を記念し、千里が晩年に結んだ日損庵に綿弓塚碑を建てました。その碑を法善寺に移し、大正13(1924)年に興善庵跡、平成4(1992)年に民家を利用した休憩所もある現在の場所に移転をしました。



### スタート 長尾神社

竹内街道最東端にある神社。御祭神は天照大神と豊受大神および水光姫命と白雲別命が祀られています。古代においては、大阪から竹内街道を通って大和へ入り、藤原京に至る「横大路」の西側の入り口となる重要な場所であり、そして現在も主要な道が交差することから、産業の神であり交通安全の神としても信仰されています。



### ①長尾の道標

竹内街道と長尾街道が交わる地点にあります。「右/よしのつば坂かうや 左/はせいせ道」と記されています。



### ⑤芭蕉の小径

俳人の松尾芭蕉は貞享元(1684)年の『野ざらし紀行』と元禄元(1688)年の『笠の小文』の二度の旅路で當麻寺に詣でています。野ざらし紀行では、竹内出身の門人・千里の故郷に数日滞在し、その折當麻寺に詣で「僧朝顔いく死かへる法の松」の俳句を残しましたが、その巨松も今は枯れ、その姿は見られません。中の坊門前の境内に、枯れた巨松の株に囲いをして保存されていますが、傍の石に「ごらいこうの松」と記してあることから、これが芭蕉の詠んだ法の松であったと思われます。

### ゴール 當麻寺

聖徳太子の異母弟である麻呂子王が建立した「万法蔵院」を始まりとされています。役行者の修行の地でもあり、後には藤原豊成の娘、中将姫が入寺し、當麻曼荼羅を織りあげたとされます。室町時代以降は浄土信仰の中心的な存在となりました。当初は竹内街道に面して南側を正面に建てたと考えられますが、南門があったかどうかは今も謎です。



### ②緑の一里塚

一里塚は、かつて街道を旅する人々にとって里程の目印であり、塚上の木がつくりだす木陰は一般の休憩所でもありました。2013年、竹内街道敷設1400年を記念して、地域の皆さんと協働で大阪市、堺市、松原市、羽曳野市、太子町、葛城市的街道沿いに「緑の一里塚」が整備されています。



### ③大峯山上夜燈 旧旅館菊屋所在地

江戸末期の攘夷討幕運動で、五條から敗走する天誅組の中山忠光ら7名が竹内峠を越えて大坂に逃げました。旅館菊屋にひそんで郡山藩士らが天誅組を待ち伏せていたとされています。

大峯山上夜燈

